

2023 年度事業報告書

I. 概況

痛風・尿酸分野に於ける我が国の研究は、慢性腎臓病や心血管障害その他疾患への影響も明らかになるなど今や世界に冠たる水準にあるが、痛風の通院患者数は増え続けて、現在約125万人、高尿酸血症患者は約1,000万人と推定され生活環境の変化等も加わり更に増加し続けていると言われ、研究の更なる深化が求められている。

当財団は、研究者への支援助成事業や、医師や医療関係者を対象とした最新情報に関する研修会の実施を通じて、痛風や尿酸に関連する疾患の医療の質の向上と発展を目指し、一般国民への啓発活動と、国民保健の向上へ寄与することを基本理念として事業を行った。

一方、事業を支える財政面では、各方面からの寄付や賛助会費及び資産の運用益が伸び悩み、物価上昇などの影響もあり、引き続き厳しい運営を求められている。

II. 事業の概要

1. 研究助成事業

痛風・尿酸・核酸代謝に関する臨床的或いは基礎的研究を対象として、その研究成果が疾患及び病態の成因と治療や予防に有用な影響を与えるものと期待される研究を対象に助成を行った。

募集は、財団ホームページや医学関係の新聞や雑誌などへ掲載し、9月1日から10月31日まで応募を受け付け、応募総数は33件であった。

選考は、理事会で選任された各専門分野の選考委員4名と財団理事3名の計7名で、応募書類を事前に審査し、その結果をもとに12月7日開催の選考委員会で審議を行い、研究助成対象者18名に総額500万円の助成を実施した。

[選考委員]

山中 寿 医療法人財団順和会山王メディカルセンター 院長
公益財団法人痛風・尿酸財団 理事長

鎌谷 直之 スタージェン医療人工知能研究所 所長、財団理事

川人 豊 京都府立医科大学大学院医学研究科免疫内科学講座 病院教授
膠原病・リウマチ・アレルギー科 部長

平和 伸仁 横浜市立大学附属市民総合医療センター腎臓・高血圧内科 部長

細谷 龍男 東京慈恵会医科大学 名誉教授、財団理事

矢嶋 宣幸 昭和大学 医学部内科学講座リウマチ膠原病内科学部門 教授

渡辺 宏久 藤田医科大学病院 脳神経内科 教授

[研究助成対象者]

申請者	所属	研究テーマ
永森 收志	東京慈恵会医科大学 教授	尿酸輸送超複合体の機能・構造解析による 近位尿細管物質輸送の統合的解明
桑原 政成	虎の門病院 循環器センター内科 医長	キサントシンオキシダーゼ阻害薬離脱症候群の検 討
榊原 伸一	早稲田大学・人間科学学術院 教授	プリノソーム可視化によるプリン新生機構の解 明
安西 尚彦	千葉大学大学院医学研究院 教授	AlphaFold2 を用いた尿酸トランスポーター URAT1(SLC22A12)の尿酸および阻害薬認識に 関わる結合部位の解明
鶴田 文憲	筑波大学 生命環境系 助教	プリン代謝によるミクログリア分化成熟の制御 メカニズム
中枋 昌弘	名古屋大学大学院医学系研究科 総合保健学専攻 実社会情報健康医療学・准教授	プロテオミクス解析による尿酸・腎機能関連タ ンパク質の探索
高田 龍平	東京大学医学部附属病院 教授/薬剤部長	尿酸降下薬による核酸代謝変動に関する研究
岡本 研	東京大学 大学院農学生命科学研究科 研究科応用生命化学専攻	腎性低尿酸血症における嫌気時エネルギー代謝 解析
関根 舞	東京薬科大学薬学部医療薬学科 助教	Lesch-Nyhan 症候群患者 iPS 由来神経細胞の解 析
藏城 雅文	大阪公立大学大学院医学研究科代 謝内分泌病態内科学 講師	尿酸の感染症の発症・重症化における意義の解 明
南 聡	大阪大学大学院医学系研究科 生 化学・分子生物学講座 遺伝学 特 任助教(常勤)	リソソーム損傷応答を制御することにより尿酸 腎症に対する新規治療法を開発する
小倉 康平	京都大学大学院農学研究科 准教授	血中尿酸高値に関与すると予測された腸内細菌 のメタボローム解析
藤田 義人	京都大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌・栄養内科学 講師	キサントシン酸化還元酵素(XOR)による褐色脂肪 組織の分化制御機構の解明
藤島 裕也	大阪大学大学院医学系研究科 内 分泌・代謝内科学 助教	血中核酸代謝物に注目した骨格筋指標の探索と その臨床応用

綱島 亮	山口大学大学院 創成科学研究科 (理) 准教授	尿酸水素ナトリウム一水和物結晶の分子結晶学的理解の深化
松尾 洋孝	防衛医科大学校 分子生体制御学 講座・教授	血清尿酸値の遺伝要因の強さに着目したゲノム個別化看護の実装に対する研究
西山 毅	名古屋市立大学大学院 医学研究科公衆衛生学・准教授	血清尿酸値がメンタルヘルスに与える因果効果を確認する網羅的メンデルランダム化研究
木村 佳貴	帝京大学医学部微生物学講座 助教	全身性合併症を含めた乾癬病態に対する尿酸の作用の検討及び新規治療法の探索

2. 研修事業

□ 第34回痛風・尿酸研修会

全国の医師・薬剤師・栄養士など医療関係者を対象として、9月10日(日)に4年ぶりに一堂に会して東京都千代田区の日本教育会館にて開催した。

後日、同研修会を録画配信したオンデマンドビデオ配信も行った。

痛風協力医療機関への案内やホームページにて参加者を募り、医療関係者など会場での対面方式では、49名、オンデマンド配信は41名の参加があった。

研修プログラムと講師は以下の通り

第1部：高尿酸血症・痛風診療の進歩

座長 細山田真 (帝京大学薬学部人体機能形態学)

1. 尿酸研究の最前線：最近のエビデンスのアップデート

講師 桑原政成 (虎ノ門病院循環器センター内科)

2. 高尿酸血症と痛風のエビデンス：最近のエビデンスのアップデート

講師 箱田雅之 (安田女子大学家政学部管理栄養学科)

〈ランチョンセミナー〉

高尿酸血症の生活習慣病における意義

座長 山中寿 (公益財団法人痛風・尿酸財団)

講師 藏城雅文 (大阪公立大学大学院医学研究科)

共催/株式会社富士薬品

第2部：高尿酸血症・痛風診療の基本

座長 寺井千尋(サクラビアクリニック)

1. 痛風関節炎の診断と治療

講師 横川直人 (東京都立多摩総合医療センターリウマチ膠原病科)

2. 高尿酸血症と合併病態の治療

講師 内田俊也 (神田西口うちだ内科院長)

第3部：Q&A 各講師及び山中寿理事長

□痛風協力医療機関の拡充

患者や一般の方からの問い合わせでは医療機関の紹介依頼が最も多く、全国の約 120 ヶ所の痛風協力医療機関を推薦している。しかし当財団の協力医療機関はまだ東京や大阪など大都会に集中しており、地域によっては要望に応えるには十分とはいえず研修会参加医師への呼びかけや関係者からの推薦により協力医療機関を増やすよう努めている。

3. 啓発事業

□インターネットによる啓発

当財団のホームページは年間のアクセス数は毎年 100 万件を超えている。「痛風・尿酸ニュース」は 2 ヶ月に一度更新し痛風や尿酸についての記事を掲載している。今後も痛風や高尿酸血症などについての最新知識や診療機関の情報を掲載し便宜に供していきたい。

□患者や家族などから問い合わせへの対応

診療医療機関の紹介依頼には、居住地域を考慮の上で痛風協力医療機関を紹介し、発作時の対処方法や食事に関することなどに対しては、専門医師などに問い合わせを行いその内容を伝えている。

□小冊子及び会報による啓発

「尿酸値をコントロールする」など小冊子は、全国協力医療機関を通じて患者や希望者に配布を行っている。

会報については、1 月に財団理事や関係者などからの寄稿文や最新情報を掲載した新年号を発行し会員や協力医療機関に配布した。

□その他

港区の公益財団などを支援する港区版ふるさと納税制度（団体応援寄付金）を活用した寄付を賛助会員などに依頼した所、その結果、22 名の申込があった。

Ⅲ. 会員の現況 (2024 年 3 月 31 日現在)

個人賛助会員 92 人

団体賛助会員 12 団体

特別賛助会員 7 団体

以上